



# 先達はあらまほしきことなり!!

今年も酷暑（こくしょ）でした。体温をも超える炎天下での外作業は修行ものでした。緑陰とそよ風、冷たい飲み物のありがたみを実感しました。そんな中、先達について、思ったことをお話します。

エピソード①：夏に思い出す言葉

若い頃、職場で除草の奉仕作業を汗だくになって夢中でやっていると、先達（せんだち、せんだつ：その道の先輩、指導者）が「〇〇さん、げあんごです。ね。」と声を掛けてくださいました。はて？げあんごとは？この時は何のことやら意味不明でした。後で調べると、仏教僧が夏の一定期間外出しないで、精舎（しょうじゃ：寺のルーツ）の一室にこもって修行をすることを『夏安居』（げあんご）といい、その修行を始めることを『結夏』（けつげ、けちげ）、修行が明けることを『解夏』（げげ）ということを知りました。僧達は、この修行を終えると各地に出向き、辻説法（つじぜっぽう）を行います。それ以来、この言葉は、私の夏を支えてくれる言葉になりました。こんな先達、今は中々お目にかかりません。

エピソード②：地域の草刈り作業の教訓

8月の初め、地域の草刈りがありました。ちょっと早めに現場に行き、刈り払い機で草や落葉の捨て場を確保し、ノカンゾウなど刈ってはいけない周辺に籬を立てました。定刻には、鎌や刈り込み鋏（ばさみ）、鋸（のこぎり）で、草を刈ったり、竹や雑木の枝を切る作業が始まりました。暑さが増す前に終わらせようと、みんな一生懸命です。でも、段取りを示し、注意点を周知させる先達がいませんでした。刈り払い機の作業を進め戻ってみると、ノカンゾウの葉は刈り取られ、始末に困った竹や枝は道端に残されたまま、人々は解散していました。先達がいれば、段取り七分、作業時間と始末や片付けの時間は五分五分、注意点の周知、枯れた竹や木は堅くなるので生の内に処理する等々…助言できたろうに…と。里山活動を始め共同作業にはあるあるのできごとです。里山活動でも、前年に植えたヤマブキが綺麗に刈り払われたり、伐採した竹や木がそのまま放置されることもありました。教訓、『徒然草』（つれづれぐさ）の一節「少しのことにも先達はあらまほしきことなり」（「ほんのちょっとしたことにも、その道の指導者は持ちたいものである。」の意）を思いました。その後、ノカンゾウの近くに看板を立てました。

里山の9月の活動は、9月8日（日）に行われました。二隊に分かれ、一隊は大学通り歩道の除草や遊歩道の草刈り、もう一隊はヤマツツジ植栽の下準備として八幡神社北側斜面林の中低木の間伐と下草刈りを行いました。残暑厳しく蒸し暑い中、自治会の皆様、立正大学関係者、中学校関係者、個人ボランティアなど20数名程の参加者が、各々の持ち場で活躍してくださいました。間伐隊は、昼食を挟み午後も作業を続けてくださいました。お疲れ様でした。



写真担当  
吉中Sさん



頑張る!!  
校長先生



歩道の除草



北側斜面林  
& 遊歩道

次回活動日（10月は地区民体育祭の為休会）  
11月10日（日） 9:00～  
里山整備作業予定（吉岡中駐車場集合）



八幡坂の看板